

CITY OF YOKOHAMA

第6期第3回 市民協働推進委員会

市民協働推進委員会答申（令和5年3月） 進捗報告

令和5年12月4日

具体的な取組の提案

今後の市民協働のあり方について 3つの提案 を示します。

提案 1

地域情報の一元化・
一覧化

提案 2

しなやかな組織運営

提案 3

つなぐ力の強化

提案 1

地域情報の一元化・ 一覧化

デジタル技術を積極的に活用した地域活動団体の紹介に加え、活動している場所や活動内容、参加方法、手伝いを求める内容など、[地域情報の一元化・一覧化](#)を図ることで、必要な情報にたどり着けるような支援や、テーマや分野を超えた横断的な活動ニーズとシーズのマッチングを促す必要があります。

◆市民活動情報のデジタル化～市民の手元の届く『地域情報』～

地域情報を、市民(特に中高生や現役世代)の手元に届け、
反響が見える化できる仕組みを構築したい

【地域情報】

- 自治会町内会やNPO法人が広報しているイベント参加者や『スキマボランティア』の募集、イベント参加者募集などの諸情報のこと。

【手元に届く】

- スマートフォンやタブレット端末など、携帯性や操作性に優れたデジタルツールを活用して効率的に地域情報が届くこと。

【反響の見える化】

- 手元に届いた情報にリアクションできる機能(いいねボタン、お気に入りボタン)を設けること。

◎現在、事業者と試行的なアプリとウェブサイトを構築中。

1月以降、青葉区・都筑区の2区で活動している団体による実証実験を行います。

◆市民活動情報のデジタル化～市民の手元の届く『地域情報』～

ヒアリング調査（令和5年7～8月）

市民活動団体へのヒアリング

◆NPO法人等：7団体

◆自治会町内会：5自治会

◆公園愛護会：1団体

閲覧者へのヒアリング

◆大学生：4名

◆大学生（インターン生）：3名

【ヒアリングに協力いただいた団体】

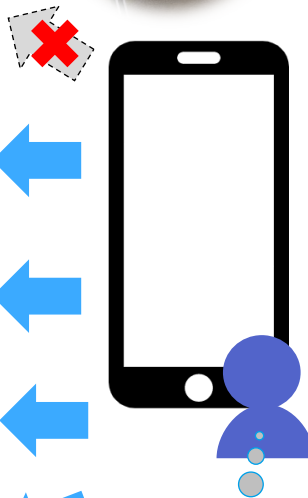
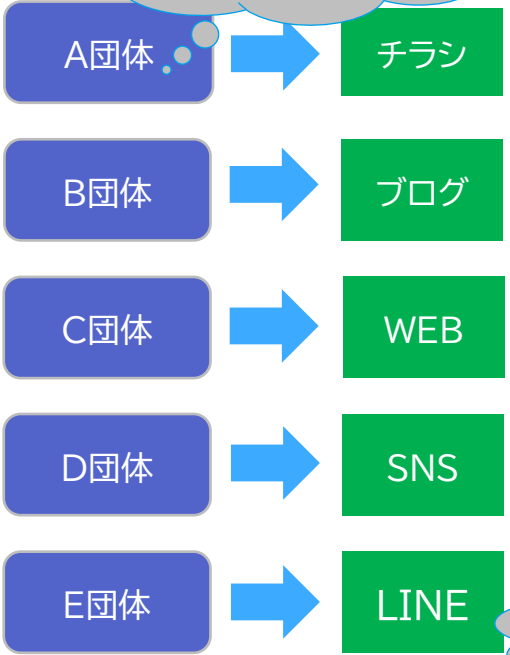
- ・NPO法人H&K
- ・保育グループママエール
- ・美味しいコーヒーの淹れ方
- ・つづきパソピア
- ・NPO法人WE21ジャパン
- ・NPO法人ロクマル
- ・NPO法人アクションポート横浜
- ・鴨志田町内会
- ・鴨志田緑自治会
- ・勝田南町内会
- ・すみれが丘町内会
- ・折本町内会
- ・荏子田太陽公園愛護会

◆市民活動情報のデジタル化～市民の手元の届く『地域情報』～

◆提案1◆
地域情報の一元化・
一覧化

<Before>

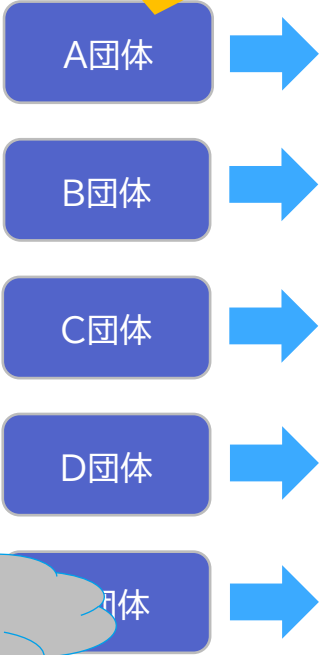
団体ごとに独自に、苦勞しながら
情報発信している。中心はチラシ。
⇒リーチの度合い、リアクションが
わからない。



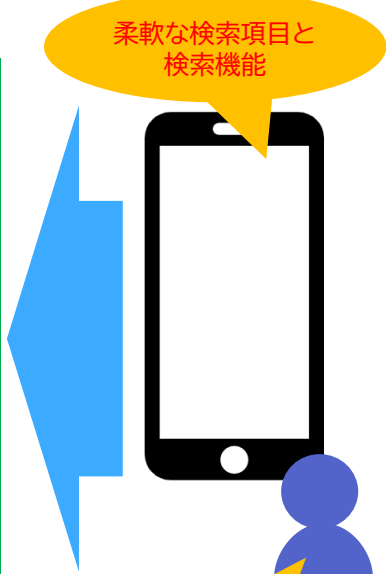
団体ごとに媒体が分かれていて、
知りたい情報に辿りつくのが大変。。。
⇒機会損失。

<After>

情報発信が簡単！すぐ発信可能。
閲覧者の反響が分かる。



地域情報
が一元化・
一覧化さ
れたサイト



柔軟な検索項目と
検索機能

知りたい情報に簡単に
辿り着ける！
活動に参加するモチ
ベーションアップ！

※YOKOHAMA Hack! 募集資料より引用

◆市民活動情報のデジタル化～市民の手元の届く『地域情報』～

◆提案1◆
地域情報の一元化・
一覧化

・現在、実証実験に向けたプロジェクト計画書や協定書、覚書等の協議を、事業者と進めています（実証実験は令和6年1月以降の開始を予定しています）。

・今後は、青葉区・都筑区の市民活動支援センター、及び地域振興課と連携し、NPO法人や自治会町内会、公園愛護会等、市民活動団体への参加呼びかけに着手していきます。

・あわせて、学生（大学生や高校生）や現役世代への周知PRも進めていきます。

提案 2

しなやかな組織運営

例えば、自治会町内会の仕事を細分化し、[分担制](#)や[ボランティア制](#)を導入することで、多世代が参加する地域運営や、NPO法人等の多様な主体と連携・協働する取組が進み、担い手不足の課題に対応できる可能性が生まれます。

◆ “スキマボランティア”

◆提案2◆
しなやかな組織運営

市民活動情報のデジタル化の事業者募集では、“スキマボランティア”の考えを新たに打ち出し、募集内容に盛り込みました。

地域活動への体験参加、部分的なボランティア参加など、学生や現役世代が気軽に活動に参加できるような募集を、新たに公開される地域コミュニティサイト上で情報発信することが可能になります。

“スキマボランティア”とは、イベントや行事、期間を限った運営への参加、活動内容の細分化、分担制などのこと。市内の一部のNPO法人や自治会町内会で取り入れられている手法であり、市民活動の担い手不足解消に寄与しています。

横浜市では、横浜市民協働推進委員会からの答申に記載された具体的な取組の提案『提案2 しなやかな組織運営』を受け、新しい市民活動への参加の形として、その具体化・具現化を目指しています。

※YOKOHAMA Hack! 募集資料より引用



▲自治会町内会のボランティア制度（都筑区北山田町内会）



▲NPO法人のボランティア制度（NPO法人こまちぶらさ）

提案 3

つなぐ力の強化

中高生・大学生や現役世代など、新たに地域活動に参加したいと思った市民を実践に結びつけるためには、中間支援組織の人材育成機能やつなぐ力（コーディネート力）を充実させる必要があります。

つなぐ力の強化に向けては、中間支援組織が中心となり、市民活動団体へのデジタル化支援、対話や交流の場づくりに取り組む必要があります。

◆各区市民活動支援センター ネットワーク会議

◆提案3◆
つなぐ力の強化

令和5年度 ネットワーク会議 実施結果・計画

	日時	参加者	内容
第1回	7月19(水)	市民活動支援センター担当係長、職員、センター職員 ※地域力推進担当も希望すれば参加可能	<ul style="list-style-type: none">・講義（市民活動支援センターの役割等）・各区SWOT分析による自区の強み・弱みの整理 ※分析テーマ：「①中間支援組織等とのプラットフォーム」、 「②地域活動の担い手育成のための事業」、「地域（主に自治会町内会）及び区役所内部との関わり」・各区SWO分析結果をもとにしたグループ内での共有・意見交換、個人で今後取り組みたいことの表明。
第2回	12月18(月)	市民活動支援センター担当係長、職員、センター職員 ※地域力推進担当も希望すれば参加可能	<ul style="list-style-type: none">・講義（区内施設、NPO、地縁団体、企業等と繋がることについて事例紹介、コーディネーターに必要なスキル等）・市民活動支援センターの関係者・協力者を可視化するステイクホルダー分析・ステイクホルダー分析結果を元に今後繋がりをつくっていくためのグループワーク。

◆各區市民活動支援センター ネットワーク会議

アンケート結果より伺える意識

第1回ネットワーク会議時のグループワーク時に話合った3テーマについての「気付き」及び「今後行いたいこと」として、多くの意見があがりました。

グループワーク実施時 テーマ	グループワークを通しての 気付き	今後行いたいこと
①中間支援組織等とのプラットフォーム	既存ネットワークを活用しつつより顔の見える関係性作りをすることの重要性	他施設との連携、連携会議の実施及び開催方法・開催テーマ等の工夫
②地域活動の担い手育成のための事業	若年層取り込みの重要性、区役所内での事業整理等の必要性	学生（学生ボランティア含）との連携、区役所内での事業整理
③地域（主に自治会町内会）及び区役所内部との関わり	自治会・町内会及び区役所内での連携が十分でない	庁内連携の促進、まちの先生の紹介リストの活用等による自治会町内会との顔の見える関係作り

◆市民協働推進センター 人や情報がつながる “場づくり”

つながりづくりを目的とした交流イベントの実施とともに、スキルアップのセミナーや相談会等でも参加者同士が交流するプログラム・時間を組み込むことで、多くの“場づくり”を実現。また、つながりをその場限りにならないために、イベントや講座の終了後に、関心のある参加者が集まる場も設けました。

また、協働・共創の一体的取組を進める中でも、企業や学校など、より多くの主体とのネットワークの拡大が進んでいます。

「市民協働相談会」

設定したテーマや活動分野について、悩みや関心のある参加者が集まり、ゲストの話や参加者同士の交流等を通して、自分たちの活動に活かせるヒントや気づきを得る場。「アフタートーク」として、参加者同士のつながりづくりに向けた事後の対話の場も開催。

「コラボレーション@スペース」

「ChatGPT」や「食と農」など話題性のあるテーマを設定し、ゲストトークや参加者同士の意見交換・交流会を実施。これまでリーチできていなかった新たな層と従来の活動者や市民協働推進センターとのつながりを実現しました。

【参考】第1回テーマ「ChatGPTを活用した地域の協働」
第2回テーマ「横浜の食がつなぐ協働の未来」

